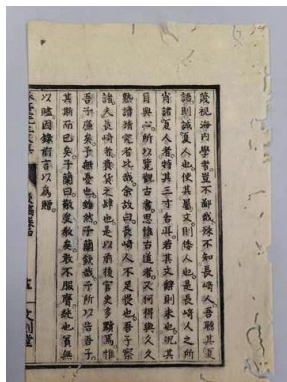


虫損直し



和装本の材料である和紙は、楮^{こうぞ}、三桮^{みつまた}、雁皮^{がんび}などの植物が原料です。そのため保存方法が悪いと虫食いによる損傷（虫損）が生じます。

虫損直しには繕い、裏打ち、漉き嵌め（リーフキャストイング）などの方法があります。それぞれ長所、短所がありますが、下記の「繕い」による方法は本紙への影響を最小限にし、また、その資料の持つ風合いをそのまま残すには最適の方法といえます。

なお、いずれの方法にせよ、使用する和紙は不純物がよく取り除かれ、化学的処置が少ないものを選ぶことが肝要です。修復には楮100%を原料とした楮紙を使うことが多いです。楮は三桮、雁皮などと比較して繊維が最も長く、何にもよくなじみます。また、糊は防腐剤や不純物の混入しない小麦でんぷん100%から作る生麩糊^{しょうぶ}を使います。

手順

1、解体

糸を切り、一枚毎に分離する。



2、紙合わせ

本紙に合った厚さ、色、風合いの紙を選ぶ。



3、喰裂(くいさき)作り

和紙を湿らせ手でちぎり、和紙の繊維を出した喰裂を作る。



4、繕い

本紙の裏から、虫損に合わせて喰裂を、水で薄めた生麩糊で貼る。



5、化粧断ち

本紙からはみ出た余分な和紙を切り落とす。



6、締め置き

厚くなった繕い部分が平らになるまで締めておく。



7、仕立直し

中綴じ、糸綴じをして再製本する。

